

研究活動報告

日本人口学会2018年度中部地域部会

2018年度中部地域部会は、2018年12月8日(土)、南山大学名古屋キャンパス(名古屋市)で開催された。参加者は報告者を含めて8名であり、5本の報告があった。報告のテーマは、出産意欲、小地域別患者数、鉄道沿線の人口変動、外国人労働者、親元同居と多岐にわたっており、それぞれ活発な議論が交わされた。ただし、報告者がすべて関東からの出席ということもあり、中部地域に関連する報告が少なかったことは課題かもしれない。ちなみに、報告者と報告タイトルは下記の通り。

1. 松浦 司(中央大学)“Fertility Intention and Birth Behavior: An Analysis using Japanese and Korean Data”
2. 片山 梨奈(青山学院大学)井上孝(青山学院大学)「関東地方における小地域別慢性腎不全患者数の将来推計(2015-60年)」
3. 小松 真治(青山学院大学)井上孝(青山学院大学)「東急電鉄沿線における人口変動と少子高齢化の展望—2010~60年—」
4. 佐々井 司(国立社会保障・人口問題研究所)「近年における外国人労働者の動向~中部地方の状況を中心に~」
5. 吉田 俊文(慶應義塾大学)「親元同居率の趨勢—国勢調査(1975-2015)を用いた二次分析」
(佐々井 司 記)

特別講演会 (Willem Adema 博士)

2019年3月19日(火)10:30~11:30 厚生労働省専用22会議室において、ウィレム・アダマ博士(OECD シニアエコノミスト)による特別講演会が行われ、「OECD から見た日本の家族政策—働き方・少子化対策・男女平等の観点から—」の題目の下、家族政策の目的、社会経済的文脈、政策ツール、政策課題、の4つのトピックが取り上げられた。同氏が中心となり構築してきた国際比較データより日本の特徴が示されるとともに、OECDにおける家族・ジェンダー政策研究に基づく豊富な知見が披露され、我が国の政策を考える上で示唆に富む講演であった。厚生労働省・社人研と一般から60名以上が参加し、会場は満席、終了後も質問者が列を成す盛況ぶりであった。本講演会は、厚生労働省国際課との共催で行われ、同省よりOECDへ出向中の小野田知子氏の協力を得た。

(竹沢純子 記)

日本地理学会2019年春季学術大会

日本地理学会2019年春季学術大会は、2019年3月20~22日(22日は巡検のみ)、専修大学生田キャンパス(神奈川県川崎市)において開催された。今回の大会では「人口」のセッションが2つ設けられ計13の報告が得られるなど、人口をテーマとした研究が比較的目立ったが(報告数が多かったため

各報告タイトルについては省略), そのうちの1セッションは日本に在住する外国人, または海外に在住する日本人をテーマとした研究によって構成されていた。地理学においても国際人口移動研究が新たな潮流のひとつとなっていることを実感するとともに, 人口学的な観点から国際人口移動に関する分析を進めていくうえでも多くの知見を得ることができ, 有意義な機会であった。

(小池司朗 記)

国際セミナー「貧困測定の多元的なアプローチ」の開催

2019年3月27日(水), 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホールにおいて, 「貧困測定の多元的なアプローチ」をテーマに国際セミナーを行った。本セミナーは, 当研究所の特別講演会を慶應義塾大学経済研究所と共催したものである。セミナーのプログラムは以下のとおりである。

解題

「生活保護制度と生活困窮者自立支援制度の課題」駒村康平(慶應義塾大学 経済学部 教授)

基調講演

「世帯はどの支出から減らしていくのか: 多元的貧困の測定から」ジャック・シルバ(イスラエル・バル＝イラン大学 経済学部 教授)

貧困研究報告

「MIS (Minimum Income Standard) 法による最低生活費の推計: その展開と政策含意」

阿部 彩(首都大学東京 人文社会学部 教授)

「日本における貧困の実態」渡辺久里子(国立社会保障・人口問題研究所 企画部 研究員)

閉会挨拶 遠藤久夫(国立社会保障・人口問題研究所 所長)

駒村教授からは, 2000年代からの生活保護基準の改定や今後の課題等が提起された。シルバ教授は, 多元的貧困測定の理論, 実証分析の手法とその結果について講演された。阿部教授は, Minimum Income Standard を用いて最低生活費を算出した研究や子どもの物質的剥奪を分析した研究を報告され, 渡辺研究員は Item Response Theory を用いて, 世帯がどの順番で支出を減らしていくかの分析結果と, ヨーロッパとの比較を提示した。(渡辺久里子 記)

日本人口学会2018年度第2回東日本地域部会

2019年3月30日(土) 13:30~16:30に, 東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟13階第6セミナー室にて, 日本人口学会2018年度第2回東日本地域部会が開催された。テーマは「性に関する情報と人口」で, 小西祥子東京大学准教授が組織・企画し, 森木美恵国際基督教大学上級准教授の座長のもと, 以下の報告等が行われた。

小西祥子(東京大学) 「企画セッション『性に関する情報と人口』の趣旨説明」

林玲子(国立社会保障・人口問題研究所) 「『包括的性教育(Comprehensive Sexual Education)』をめぐる国際的な議論について」

橋本紀子(女子栄養大学) 「世界から見た日本の性教育」